

27	田原	田原市立若戸小学校	コクボ アキラ 名前 小 久 保 旭
分科会番号	11	分科会名	保健体育(体育)

仲間と関わりながら多様な動きを創造し、動きを高めることができる子の育成

ー5年「それいけ！表現アドベンチャーワールド～コミュニケーションで表現アップ～」の実践を通してー

1 研究主題設定の理由

本学級の児童は、体育に意欲的に取り組むことができる。6月に行ったアンケートでは、体育の授業が好きと答えた子が約9割であった。1学期に行った陸上運動「リレー」の授業では、タイムを縮めるために班で走り方やバトンパスの仕方を工夫し、協力して練習に取り組む姿が見られた。しかし、考えを伝える場面では、一部の子しか発言できず多くの子は仲間の意見を聞くだけになってしまう状態であった。考えを伝えられない原因として、「自分の動きや考えに自信がないこと」が考えられる。特に運動の苦手な子は、仲間の意見をもとに取り組んでみてもうまくいかず、消極的になってしまうように感じた。このような子どもたちが、表現運動を通して運動に夢中になり、一方通行ではなく双方向のコミュニケーションを図ることによって技能を高めてほしいと考えた。

表現運動は、自己の心身を解き放して、イメージやリズムの世界に没入して踊ることが楽しい運動である。また、互いのよさを生かし合って仲間と交流して踊る楽しさや喜びを味わうこともできる。運動を苦手とする子でも感じたことやイメージしたことの表現に没入し、仲間と一緒に踊ることで、夢中になって取り組むことができる教材である。コミュニケーションを活性化させ、メリハリのある動きや誇張のある動きで表現する姿を期待したい。以上を踏まえ、本研究の主題を『仲間と関わりながら多様な動きを創造し、動きを高めることができる子の育成』とし、表現運動を教材として研究を進めることにした。

2 研究の構想

(1) めざす子ども像

仲間と関わりながら多様な動きを創造し、動きを高めることができる子

本研究における「動きを高める」とは、メリハリや誇張のある表現をすることとする。

(3) 研究の仮説

仮説1 心や体をほぐし、アドバイスし合うための視点を与えることで、双方向のコミュニケーションを活性化させることができるだろう。

手立て1 仲間と関わりながら心と体をほぐす「なりきりゲーム」

踊ることへの恥ずかしさを取り除くために、単元の序盤において、「なりきりゲーム」を4種類行う。1つ目は、新聞紙になりきって表現をする「なりきり新聞紙」である。2つ目は、イラストに描かれたロボットや、ポップコーンなどになりきって表現する「なりきり表現タイム」である。3つ目は、

イラストに描かれたものを表現して当てる「表現ジェスチャーゲーム」である。4つ目は、イラストカードをめくって出たものを表現する「表現かるた」である。「表現かるた」では、イラストをめくったときの面白味をもたせたり、驚きを与えたりするために、児童が描いたイラストを用いる。仲間とともに様々なものになりきることで心と体をほぐすことができると考えた。

手立て2 コミュニケーションを活性化させるための視点「4つのくずし」

授業の中で動きの速さや方向、「しゃがむ、回る」などの様々な動きを紹介し、4つのくずし（筑波大学教授：村田芳子提唱）に分類して価値付けをする。

くずし…表現運動において動きに変化を加えて、多様な動きを生み出す工夫のこと。
○体のくずし…ねじる、回る、とぶ、しゃがむなど体の動かし方の変化。
○空間のくずし…前や後ろ、ななめ、ジグザグなどの踊る方向や場の変化。
○リズムのくずし…すばやく、ゆっくり、止まるなどリズムや速さの変化。
○人間関係のくずし…離れる、くっつく、くぐる、真似るなど仲間との関わりの変化。

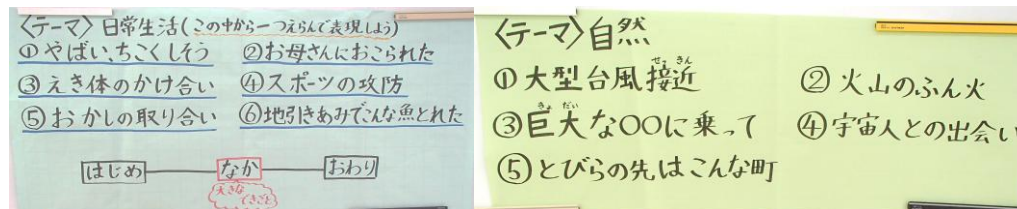
4つのくずしの視点をもつことで、自分たちの動きに取り入れたり、仲間同士で新たな動きを見つけて伝え合ったりすることができ、双方向のコミュニケーションを活性化させられるだろう。

※この4つのくずしは、複数重なり合って表現することがある。

仮説2 「表現したい」と思えるテーマを設定すれば、多様な動きを創造し、動きを高めることができるだろう。

手立て3 特徴や感じを捉えやすいテーマの提示

テーマに沿った構成を即興的に考えられるように「日常生活」と「自然」について表現を行う。以下のテーマをグループごとに選択し、作品作りをする【写真1】。



【写真1 「日常生活」と「自然」のテーマの掲示】

身近で想像しやすいテーマを提示することで、仲間と関わり合いながら学びを深め、動きを高めることができると考えた。

(4) 仮説の検証方法

本研究を通したA児の変容を中心にワークシートの記述や授業記録、対話記録等をもとに分析することで、仮説における手立ての有効性を検証する。

【A児の実態】

- 6月の陸上運動「リレー」では、バトンパスの練習を仲間と協力して取り組むことができた。
- △単元の初めは、踊ることへの恥ずかしさがあり、どう動いたらよいか戸惑いがあった。
- △自分の考えに自信がもてず、仲間の意見を聞くだけになってしまう。

【A児にかける教師の願い】

運動を行う中で自分の考えを積極的に伝えられるようになり、運動することの楽しさや喜びを味わってほしい。また、仲間と関わり合いながら、多様な動きを発見したり、メリハリや誇張のある動きを取り入れて、動きを高めたりしてほしい。

3 研究の実践と考察

(1) なりきりゲームで運動を楽しむA児（手立て1）

学習を行う前にアンケートを行ったところ、A児は表現運動が好きではないと答えた【資料1】。理由を問うと、「みんなの前で表現することが恥ずかしい。」「どう動いたらよいかわからない。」と述べた。学級では、表現運動が好きと答えていた子は半分しかいなかった。そこで、第1時では、表現運動を恥ずかしがらず、楽しさや喜びを味わうことができるように「なりきりゲーム」を行った。まず、「なりきり新聞紙」では、新聞紙を動かす人と新聞紙になりきって表現する人に分かれて行った。ペアの子が新聞紙をたたんだり、新聞紙を丸めたりするのに合わせて、体を折り曲げたり、体を縮めたりした。A児は、周りの子を見たり、体を少し前傾したりするだけで、まだまだ恥ずかしさが見られた【写真2】。しかし、ペアの子の「いいねえ。」の声でA児の動きも大きく、素早く変化していった。

表現運動は好きですか？	はい ☒ いいえ ☐
ダンスを踊るのは好きですか？	はい ☐ いいえ ☐
みんなの前で発表するのは得意ですか？ (ダンスや表現、発表など)	はい ☐ いいえ ☒

【資料1 A児の事前アンケート】



【写真2 新聞紙になりきるA児】

次に、「なりきり表現タイム」を行った。最初は、「ロボット」になりきって、ガクガクと歩いた。次の「納豆」では近くの子と組んで、一緒にしゃがんだり、手を上に上げてジャンプをしたりして、納豆の伸び縮みを表現した【写真3】。友達が「ワー。」と声を出しながら表現したのにつられて、A児も納豆が伸びるときにジャンプをしながら「ワー。」と声を出した。「もちつき」では、もちをつく人ともちに分かれて表現をしていた。A児は、もち役になりきり、もちをつく人の動きに合わせてしゃがんだり、立ち上がったたりして表現をすることができた。もち役の子がきねについたもちを上へ伸ばす表現をしていたときは仲間の動きを真似したり、即興的に役割を決めて、イラストに合った動きを協力して行ったりすることができた。仲間と関わって表現することで、恥ずかしさがなくなっていた。表情も笑顔が増え、表現運動を楽しむことができた。



【写真3 納豆を表現するA児】

最後に「表現ジェスチャーゲーム」を行った。同じグループの子が手をくねくねさせるとA児は「へび」と答え、当てることができた。A児がジェスチャーをするときは、「さる」のお題を引いた。両手を交互に頭にちょこんと乗せながらサルのような動きを表現していた。振り返りでは、「のびるところをだんだん細くのびるとか、手、足の仕方にも工夫したいです。」と書き、動きを高めるための表現の工夫を考え、次の活動への意欲を見せた【資料2】。

今日はみんなでかたまりながらやっただけと次は一人でも表現してみたいです。それにもっと工夫してうごきたいとおもいました。のびるところをだんだんはそくのびるとか、手足のうごかしめたいです。

【資料2 A児の第1時振り返り】

第2時では、「表現かるた」を行った。グループで縦一列になって移動し、太鼓の音で先頭の子がかかるたをめくる。かるたに描かれたイラストの動きを表現する。A児は「シャチ」のイラストをめくった。最初は一人で跳びはねながら泳いでいる様子を表現していたが、途中から同じグループの子を

「タコ」のイラストをめくったときは、手や足を動かしながらタコの動きをすることができた。仲間と組んで表現するだけでなく、一人でも動きの特徴を捉えて表現することができた。「表現かるた」では、お題をめくった後、すぐに仲間とともに即興的に表現することができていた。表現運動の授業が始まる前は、「どう動いたらよいかわからない。」と言っていたA児は積極的に体を動かすことができた。A児同様、学級全体も、イラストに描かれたものになりきり、表現する姿があった。



【写真4 シャチを表現するA児】

(2) 仲間とコミュニケーションをとりながら、動きのよさを伝え合うA児（手立て2）

第2時の「表現かるた」後のグループの伝え合いで、A児は「体のくずしには、手を広げながら動く動きがある。」「空間のくずしには、ジグザグに動く動きがある。」と話した。全体の中では、自分の考えを伝えることはできなかったが、みんなの発表を聞き、体のくずしには、走る、歩く、伸ばすなどの動きがあることを知った。リズムのくずしでは、「流れ星」の表現から速い動きがあると答える児童がいた。そこで、「リズムのくずしは速い動き以外にどんなのがあるか。」と全体に問い返したところ、「ゆっくり、遅く動く。」と答える児童がいた。また、ビデオカメラからヒントを得て、「動画の早送りや急に止まって動き出すのもリズムのくずしではないか。」と発表する児童もいた。A児は、振り返りに「前よりもあらたな表現のしかたを見つけることができた。もっとももっといろいろな表現のしかたをみつけてみたいです。」とある。このことから、他の児童の発表を聞き、動きのよさを知ったことが読み取れる【資料3】。

前よりもあらたな表現のしかたを見つけることができました。あと
もっといろいろな表現のしかたをみつけてみたいです。たとえば、ど
 うでもうとか全員で分組をおけそいいなと思えました。

【資料3 第2時のA児の振り返り】

前よりも新たな表現のふたをみつけることができました。あと
も、という表現のふたをみつけてみないです。たとえば、どろ
うでできるとか全員で分担とかねえでもないな思いました。

【資料3 第2時のA児の振り返り】

第7時では、同じ題材で発表したペアグループの子にA児は初めてアドバイスをすることができた



【写真5 4つのくずしの掲示】

【資料4】。アドバイスを取り入れたペアグループのB児は、振り返りに、「1回目は動きが小さかったけど、アドバイスでわかりやすくてできた。初めよりも大きく動けるようになってレベルアップできたと思う。」と書いていた。また、A児のグループは「かみなりを取り入れたらどうか。」とアドバイスをもらい、それを生かして発表をした。A児は振り返りに、「アドバイスを聞いてできるだけ取り入れました。前回よりもメリハリをつけられた。」と書いた【資料5】。

「4つのくずし」の視点を活用し、動きのよさやアドバイスをすることでペアグループと双方向のコミュニケーションを活性化させることができた。A児の単元の前後のアンケートからも考えを伝えることができるようになったことが分かる【資料6】。学級全体でも、半分以上の子が自分の考えを伝えられるようになったと回答した。この結果から、双方向のコミュニケーションを活性化させることができ、手立て2は有効であったと言える。

(3) 身近なテーマを表現する中でメリハリのある動きになっていくA児（手立て3）

第3時では、「やばいちこくしそう」をテーマに表現の構成を考えた。A児のグループの発表は、狭い場所で小さい動きであった【写真6】。学級全体でも、動きの小さいグループが目立った。

第4時では、「おかしの取り合い」をテーマに表現の構成を考えた。前時よりも、同じ班の子はお菓子を取り合う様子で体を使って大きく表現することができるようになってきたが、A児の動きはまだ小さかった。学級全体では、少しずつ動きを大きく表現しようとする姿が見られた。そこで、第4時の振り返りのときに、動きが大きくメリハリがある班を紹介した。地引綱を引っ張ったり、引っ張られたりして強弱をつけて動いている様子を見たA児は、動きをもっと大げさにやってもよいことに気付いた。

第5時では、「スポーツの攻防」をテーマに表現の構成を考えた。A児は、動きをもっと大げさに表現したいと思っていたが、どのような内容でやるか班で方向性が決まらなかった。そこで、A児のグループに「4つのくずし」の掲示を見て動きを考えるように声をかけた。掲示を見ながら、どんな表現をしたいのかを聞き取りながら、やりたいことを明確にした。【資料7】。そうすることで、A児は、相手のスパイクでボール役の子と一緒に後ろに吹き飛ばされる様子を表現することができた。また、勝敗の場面では、腕を大きく振り上げて地面を叩きつけ、負けたときの悔しさを表現した。

A：もっと台風を大げさに動いたほうがよいと思うよ。
T：どんなふう到大げさに動いたらよいかな？
A：最初は、台風が小さく回り、少しずつ大きく回って動く大きな台風が表せると思う。
B：（うなづく）

【資料4 第7時の会話】

最初はカミナリとかはなかったけどアドバイスを聞いて、できるだけいれました。しかも4つのくずしをふでぎ、とくに人間像のくずしの組みを合わせるや空間のくずしの左右にうごいたことで、も、全かよりメリハリをつけられたかなとも思いました。

【資料5 第7時の振り返り】

〈単元前アンケート〉
自分の考えを伝えて伝えることができますか？ よくできる ふつう できない
↓
〈単元後アンケート〉
自分の考えを伝えることができましたか？ よくできた かつう できない

【資料6 単元前後のA児のアンケート】

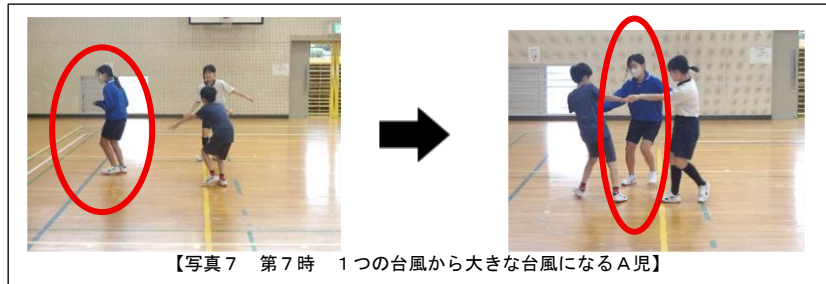


【写真6 第3時の発表の様子】

T：どんなスポーツをやるの？
A：バレーボールの試合を表現したい。
T：どんな動きを表現したいの？
A：試合で勝ち負けが伝わるように表現したい。
T：どんなくずしを使ったらよいかな？
A：体のくずしを使って、勝ったときは、ガッツポーズしながら大きくジャンプ、負けたときは地面を叩いて、悔しそうに表現したい。
T：いいね。じゃあ、試合をしている様子も考えてみよう。
A：はい。

【資料7 第5時での会話】

第7時の初めでは、さらに動きを高めるために、大きさの違うネクタイを見せ、視覚的に倍になっていることに気付かせた。提示したネクタイのようにいつもより大きく動くことでメリハリのある表現ができることを伝えた。A児の班は、「大型台風接近」のテーマを選択し、台風の動きに着目して表現の構成を考えた。最初は、一人一人時計回りに回転していたが、途中からみんなで集まり手をつな



【写真7 第7時 1つの台風から大きな台風になるA児】

いで回る表現をした【写真7】。さらに大きな台風を表現するために、回転を速くし、腕を伸ばして、さらに大きな円で表現した。発表後のA児の振り返りでは、「メリハリのある演技をするためにくずしが役に立った。」と満足していた。今回のテーマは、想像しやすかったようで、A児の班はすぐに動きを考えることができた。誇張やメリハリのある表現を行うように意識させることで、動きを大きくしたり、リズムを速くしたりして表すことができた。A児の動きは第3時よりも大きくなり、みんなで協力して表現することができた。学級全体でも、誇張を意識して表現ができるようになっていた。

このように、特徴やイメージを捉えやすいテーマを用いて仲間と関わり合いながら、動きを考えていくことで、誇張やメリハリのある表現をすることができたので手立て3は有効であったと言える。

4 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

手立て1については、なりきりゲームによって様々なものを表現し、積極的に体を動かすことができた。A児は、複数人で表現することで、恥ずかしさがなくなり、自信をもって表現できた。

手立て2は、「4つのくずし」の視点を意識させることで、よい点や改善点を伝え合うことができた。第7時では、A児はB児にアドバイスをし、B児は、動きをさらに大きくするように改善した。また、A児も、アドバイスをもとに新たな動きである「かみなり」の表現を取り入れた。このように、「4つのくずし」の視点をもつことで、双方向のコミュニケーションの活性化につながった。

手立て3については、想像しやすい身近なテーマを提示することで動きを高めていくことができた。第7時で選んだ「大型台風接近」のテーマでは、台風を1人から3人の複数人で集まり大きな台風を表現した。第3時に比べると、メリハリや誇張のある表現をすることができるようになった。テーマによって考えやすさはあったが、作品の構成を考え、即興的に表現することができた。

以上のことから「仲間と関わりながら多様な動きを創造し、動きを高めることができる子の育成」につながったと考える。

(2) 今後の課題

表現の構成を考えた際に、考える時間を長く取ったことで、劇のようなストーリー性のものになってしまった。また、早くできた班は、その表現に満足してしまい、時間を持て余すこともあった。今後は、短い時間で即興的な作品づくりを行い、発表した後、再度考える時間を設けるようにしたい。そうすることで、アドバイスを生かした表現づくりを行うことができ、児童も主体的に動きを高めようと取り組むことができると考える。仲間と関わりながら多様な動きを創造し、動きを高めることができる子の育成をこれからも研究していきたい。